６７期生

3年生学年だより

豊中市立第五中学校　2020年8月4日（火）　No.12

Ⅰ学期の道徳

６月末に各クラス担任が＜二通の手紙＞という教材で、「道徳」をしました。７月には、副担任が順番に各クラスで「道徳」を行いました。教科書を集中して読んだり、話し合いをしたりしました。今後も、授業でたくさんの意見を聞いて、自分の考えを少しずつ深め、豊かな心を育んでいきましょう。

＜二通の手紙＞

私たちが生活するうえではさまざまなきまりがあります。それを守ることで、危険を回避したり、人々が安心して暮らせたりできます。

中学生の時期は、頭では理解していても、自分の都合を優先したり、きまりに反発したりしがちです。この教材では、幼い姉弟を思いやる「元さん」に共感する生徒も多く、ささいな規則違反が大きな後悔の経験とならぬよう、なぜ「きまり」があるのか、なぜ「元さん」が重い処分を受けることになったのか、改めて考えました。

＜がんばれ　おまえ＞

中学生時代の深刻ないじめを経験し、それを克服していくために、高校では「おもしろいやつ」と思われるよう演じた少年の話で、思春期に直面する少年の心の葛藤が書かれた読み物でした。

この学習で、ありのままの自分のよさを見つめ、自身のもつさまざまな可能性に気づけるきっかけとなるよう授業をしました。

＜闇の中の炎＞

画集の作品からまねをして、自分の作品を描いたことで後ろめたさを感じている生徒の物語でした。この授業を通して、法やきまりを守ろうとする心について考えました。

法や決まりを守る心の源は自分の良心です。その判断基準の根底には良心に従った規範意識が大きく左右します。そのことを、主人公の立場に立って共感したり問題点を深く考えたりする時間になりました。

＜『知らないよ。』＞

文化祭の実行委員とクラスメイトとの間に起こった行き違いの物語を通して、自分で考えて誠実に行動することの大切さについて学びました。生徒は、自主的な行動の意義や、自分の心に誠実であろうとすることの意味などについて理解できるようになってきています。

しかし、周囲の雰囲気や友人の意見に流され、自分の良心に基づいた行動をとれないこともあります。

誠実な行動とは、責任がもてるような行動とはどのようなことかを考えました。

＜根本を究めて　ー『お茶博士』　辻村　みちよ＞

日本初の女性農学博士・辻村みちよの業績と、関東大震災で被災しても、なお、緑茶について熱心な研究をすすめ、真理を探究し続けた人を紹介しました。

日本の生活にかかせない緑茶は、沸騰したお湯ではビタミンＣが壊れ、渋みやにごり成分が出てしまいます。60℃ぐらいの湯で入れることで、ビタミンＣや甘み成分を結晶として取り出すことに成功した人が、辻村みちよです。

この人の生き方から、真理をつきつめて探究することが、喜びや豊かな人生につながることを学びました。今後改めて、自ら道を切り拓いていく進路選択したり、自分に合う生き方とはなにかをじっくり考えたりしていきましょう。